

発 言 通 告 書

発言者氏名	大村洋子
発言の会議	令和7年 2月26日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、一問一答
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

Ⅰ 物価高騰から市民の暮らしを守ることについて

- (1) 市民生活の現状をどのように認識し、予算案にどのように反映させたのか。
- (2) 近年の非課税世帯等への給付金事業における給付事務の効率化及び職員の負担軽減策について、市長はどのような基本姿勢で指示し、また、それがどのように実効的に進められているのか。
- (3) 行政センターの地域相談における相談内容のデータ化・一元化は進んでいるのか。
- (4) 行政センターと消費生活センターの連携を進めてはいかがか。
- (5) 昼時間の生活保護申請窓口を常設化するべきではないか。
- (6) 生活支援課と生活福祉課の統合により、どのような市民サービス向上を目指すのか。
- (7) 過剰な負担とならないようケースワーカーの適切な人員配置を行うべきではないか。
- (8) 保健師が部や課に縛られることなく縦横に活動できる仕組み

が必要ではないか。

2 学校給食費について

- (1) 給食費無償化の今の流れに対してどのような主体的見地をお持ちか。積極的に国へ働きかけを行っているのか。
- (2) 保護者の皆さんの御意見をどのように受け止めるか。市長、教育長に伺う。
- (3) 「給食費無償化の動向を見る」という本市のスタンス、「給食費無償化はナショナルミニマム」という市長のお考え、そして、今、なぜ、全国的に給食費無償化が広がりを見せているのか、また、今後、給食費無償化に向けて本市独自に足を踏み出していくお考えの有無、これらについて市長のお考えを伺う。
- (4) 学校給食法第11条、昭和29年9月28日付文部事務次官通達、憲法第26条を踏まえ、改めて給食費無償化についていかがお考えか。市長、教育長に伺う。

3 「マイナ保険証」について

- (1) 昨年の12月2日以降、健康保険証の有効期限に関して市にはどのような問合せが寄せられたのか。また、現状の対応についての具体的な課題を伺う。
- (2) 7月に同保険証の有効期限が迫ると問合せなどが多く寄せられることが予測できるが、どのような対応策を講じるのか。
- (3) マイナ保険証に関する自治体負担を市長はどのように受け止めているのか。国の動向を注視するとともに自治体として声を上げる必要性があるのではないか。併せて伺う。

4 市立福祉援護センターかがみ田苑の運営について

- (1) かがみ田苑の利用者の方々が、新年度も安心して、施設を利用できる状況が担保されることが何よりも大切だと思う。一方

で、社会福祉事業団の職員は、事業団の解散と職員全員解雇を受けて、4月からの生活のために有給休暇を使用し、就職活動に入らざるを得ない状況である。このような状況の中で、引継業務がスムーズに行われていると市長はお考えか。また、引継ぎの進捗報告をどのように受けておられるのか。その報告を受けて、市長はどのような指示をされているのか。併せて御所見についても伺う。

- (2) 手厚い人員体制や専門的な支援を行う体制など、市が示している横須賀市立福祉援護センター指定管理業務仕様書の水準を引き続き、新たな指定管理者へも求めていくことになるのか。また、そうであれば、新年度からこの水準の業務がしっかりと履行され、スムーズに運用されていくと市長はお考えか。
- (3) 指定管理料が前回から約2倍となり、それが利用者へのサービス向上、支援体制の強化などにしっかりと反映される運営となることが望まれると思うが、この点について市長のお考えを伺う。
- (4) かがみ田苑は、言うまでもなく、継続性、安定性が求められる施設だと思うが、今後のかがみ田苑の在り方について市長はどのような方向性をお持ちか。

5 小学校統廃合について

- (1) 新しく路線バスで通学する児童の安全確認について教育長の御所見を伺う。
- (2) 児童に寄り添った体制をどのようにつくっていくのか。児童、保護者、教員を対象としたアンケート等、聞き取りが必要だと考えるが、教育長のお考えはいかがか、併せて伺う。
- (3) 教育環境整備計画のうち、後期計画における意見の聞き取り、情報提供、最終決定は前期計画の教訓を生かし十分に丁寧さをもって行っていただきたい。そのためにも後期計画は前倒しせず、新年度はまず、前期計画を丁寧に軌道に乗せることが第一義だと考えるが、併せて教育長のお考えを伺う。

6 うわまち病院移転に伴う上町地域のまちづくりについて

- (1) 跡地の再開発を成功させるためにもにぎわいづくりの対策が必要だ。うわまち病院移転に伴う上町地域のまちづくりについて、市長のお考えを伺う。

7 「民官連携」の名で進められる「官民連携」について

- (1) ここ数年来行われてきた下水道事業における「ウォーターPPP」、ソレイユの丘や三笠公園に代表される「Park-PFI」、これらの事業は、結果として本市の職員削減につながったり、今まで培われてきた技術が受け継がれない、災害時の対応に不安が残る、市や議会のチェックが入りにくいなど課題が多いと言わざるを得ない。「民官連携」に軸足を置いて市政運営を行うに当たり、改めて市長のお考えを伺う。
- (2) 株式会社JERAの相場操縦の件について、JERAから本市に対して何らかのリアクションがあったのか。
- (3) あるいは、本市からJERAに対して何らかのアクションを行ったのか。
- (4) また、この件について、市長はどのような御所見をお持ちか。
- (5) 来年度からJERAパワー横須賀合同会社の多目的グラウンドを本市の予約システムで運用することについて現時点でどのようにお考えか。

8 気候危機とエネルギー問題について

- (1) ゼロカーボンシティ宣言を打ち出した市長に改めて気候危機に立ち向かう決意を伺う。

9 地方自治体の職員について

- (1) 一般的に地方自治体の人手不足は、財政難、業務量の増加、採用者の減少など複合的な要因により起こるとされるが、本市

の現状について市長はどのように把握されているのか。

- (2) 他自治体の新たな取組は、本市職員の給与や勤務条件などの在り方を検討する際の参考になると思われるが、市長のお考えを伺う。

10 P F A S（有機フッ素化合物）関連について

- (1) 「特異な泡」の発見からもうすぐ丸3年となる。この3年間の振り返りと今後について、改めて市長の御所見を伺う。
- (2) 環境部が行っている海水サンプリングは米海軍基地の排水処理施設からの海域が対象だが、吾妻島周辺海域へ広げてはいかがか。また、吾妻島の土壌調査と市内に点在する自衛隊施設内における調査についても情報収集する必要があるのではないかと併せて答弁を求める。
- (3) 岡山県吉備中央町の住民の血液検査結果について市長の御所見を伺う。また、本市の水道水及び井戸水のP F A Sの水質検査の結果は安全と言えるか。
- (4) P F A Sの次代を育む女性に対する影響について、本市住民の命と健康に責任を持つ市長にしっかりと考えて取り組んでいただきたいと思うが、御所見と御決意を伺う。
- (5) P F A S問題について、原因究明を促し解決へと進めていく際にどうしても避けられないのが日米地位協定の運用と改善だ。本市が把握している同協定の改定についての現況と市長の御所見を伺う。

11 戦争の準備ではなく平和の準備をすることについて

- (1) 安心安全を市民と約束できないのであれば、原子力艦には一切横須賀港への入港を御遠慮願うべきだ。市長に改めて放射能災害から市民を守ることについての決意を伺う。
- (2) 日米の基地が点在する自治体首長として、現在の我が国の「戦争できる国づくり」についてどのような御所見をお持ちか。

- (3) 平和を守るための視点で知恵を出し合う「全国基地協議会」
として努力をお願いしたい。加えて「全国基地協議会」の円滑
な運営のためには「基地関係県市連絡協議会」への再加入が必
要ではないか。併せて答弁を求める。
- (4) 私たちは18歳、22歳の若者の個人情報を見守ることを自衛隊に提出するこ
とについて以前からやめるべきと主張してきた。この件につい
て「戦争できる国づくり」の文脈で市長のお考えを伺う。
- (5) 判断能力がまだ希薄な子どもに武器に触れさせることは国際
的に見ても異常だ。教育長はこのような「職場体験」「防災体験」
が学校教育にふさわしいとお考えか。
- (6) 市長は「平和首長会議」の一員でもあり、毎月平和中央公園
から平和の光の照射を天空に放っていることを考えれば、「日本
政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」にサインさ
れるのが道理ではないか。